

分野：Ⅱ COPDに関する調査研究
② COPD 患者の ICT を活用した在宅の呼吸リハビリテーションの効果検証

Ⅱ-②

委託業務名：COPD患者に対するICTを用いた低頻度外来呼吸リハビリテーションの効果検証

調査研究代表者氏名：松野圭

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	0人	0人	4人	2人	0人	2.67
(3) 研究計画の妥当性	0人	0人	6人	0人	0人	3.00
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						2.83
(6) 総合評価(第2評価)	0人	0人	6人	0人	0人	3.00
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						2.89

2 記述評価

- ・アドヒアランスの向上、ドロップアウトの減少とその対応等を経て、参加施設数の増加が望まれる。
- ・今後の頑張りにより進行の遅れを取り戻してもらいたいと思う。リハビリの実行が適切に行われているかどうかの確認が現状の研究計画では不十分である。換言すれば、結果を評価する上で、作成した動画通りに実行されていることを確認することが必要不可欠である。患者さんから動画を発信してもらい、それを受信して確認することは可能な方法の1つだと思われる。計画を再考して、確認の手段を明確に示して欲しい。
- ・重要な研究テーマと思われるが、諸般の事情を考慮しても、令和6年度の研究の進展が少なすぎる。令和7年度以降、調査研究の遅れを取り戻すべく努力されたい。
- ・次年度以降の十分な注力と成果を期待する。
- ・COPD患者に対する呼吸リハビリテーションは、その重要性が認識されているにも拘らず、現実の実施が容易でない問題がある。本課題の目標は、この問題解決を目指すものであり評価できる。一方、期間内に相応の成果が得られるのかどうか懸念を抱かざるを得ない。また報告書の内容・表現が、やや未熟である。
- ・研究の進捗に遅れがみられるので、来年度に向けて計画に従って研究を加速することが必要である。